

香川の瀬戸内海国立公園 ガイドブック



香川県

瀬戸内海国立公園とは

瀬戸内海国立公園は、昭和9年3月16日に、備讃瀬戸地域を中心に我が国最初の国立公園に指定され、その後2回の追加指定により、紀淡・鳴門・関門・豊予の4海峡に囲まれた瀬戸内海のおおよそ半分、1府10県にまたがる日本最大の国立公園となっている。

その景観の特色は、なんとといっても、静かな海面、点在する多くの島々、白砂青松の海岸、島々の段々畑、古い漁港の街並みや行き交う漁船など、自然景観と人文景観が一体となった、独特の親しみ深い内海の多島海景観であり、他では見られない、古くから自然と人が共生してきた瀬戸内ならではの風景である。

本県の区域では、備讃瀬戸に浮かぶ塩飽諸島や直島諸島、小豆島などの多島海景観、島々の棚田や古い町並みはもちろん、屋島、五色台、大麻山等の溶岩台地(メサ地形)、飯野山等の孤立丘(ピュート地形)、奇岩怪石の絶景地として知られる寒霞渓などの独特の景観も楽しめる。

また、特色のある植生としては、庄内半島などのウバメガシ林、津田や白鳥、有明浜の松原、象頭山の照葉樹林、固有種である小豆島のショウドシマレンギョウなどがあげられる。

このガイドブックは、本県にある国立公園の園地(展望地)や公園を紹介するものです。

多くの方にお読みいただくことで、瀬戸内海国立公園が親しまれ、その美しさが再認識されるとともに、景観保護の大切さを知る一助になれば幸いです。

平成28年10月 香川県環境森林部みどり保全課



自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
 自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。
 美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

1 おお さか とうげ 大坂峠園地(東かがわ市)



▲大坂峠から引田方面を望む

大坂峠は、香川県と徳島県を結ぶ重要な峠道(古くは交通の要衝)で、源平合戦の時、屋島に向かう源義経や弁慶が通ったことで知られている。江戸時代の丁石(1丁ごとに置かれた道しるべ)が点在するなど、往時の景観が残っている。

峠を上りきったところにある大坂峠園地には、元東京大学総長・南原繁の歌碑や、パラグライダーのスタート台があり、展望台からは東かがわ市引田の街並みやのどかな



▲展望台

田園風景、淡路島や小豆島など瀬戸内海のパンoramaを眼下に望むことができる。

見どころ 南原繁の歌碑、パラグライダーのスタート台、歴史の道百選



◀元東京大学総長南原繁の歌碑
▼大坂峠休憩所



2 しろ やま 城山園地(東かがわ市)



▲城山山頂から鳴門市方面を望む

城山(標高86m)は、引田湾と安戸湾を分けて半島のように突き出ている。戦国時代から江戸時代初めにかけて豊臣秀吉の家臣である仙石秀久や生駒親正などが居城した引田城の跡がある。

引田城は、讃岐国で初めて総石垣をめぐらせた城で、現在も北と西の櫓を中心に、当時の石垣が残っている。

見どころ 引田城跡、引田灯台、女郎島



▲引田港を望む

▼女郎島(潮が引くと歩いて渡れる)



▲引田城跡の石垣



3 鹿浦越園地(東かがわ市)



▲潮越海岸

▲ランプロファイア岩脈

鹿浦越園地

鹿浦越岬は、モノトーンの美しいストライプ模様のランプロファイア岩脈が有名。これは、花崗岩に節理ができた時に煌斑岩が貫入したもので、地質学上大変珍しく、国の天然記念物に指定されている。

ここには、江戸時代末期につくられた外国船の渡来を告げる蕪越狼煙場跡や遠見番所跡があり、高松藩の海防を知る貴重な史跡である。隣接する潮越海岸は、丸い小石を一面に敷き詰めた磯浜でとても美しい。

見どころ ランプロファイア岩脈、潮越海岸



4 白鳥松原園地(東かがわ市)



▲白鳥の松原

白鳥の松原は、かつて「三里の松原」とよばれた白砂青松の景勝地。白鳥神社の社叢を中心に松原が広がり、「日本の白砂青松100選」に選ばれている。

白鳥の地名は、遠い昔、伊勢で亡くなった日本武尊の霊が白鳥となってこの地に舞い降りたことに由来するといわれ、日本武尊は

白鳥神社の祭神である。また、中世には、源義経が平家追討の戦勝祈願をすると白い羽が天から舞い降り、その後、屋島の合戦に勝利したという伝説も残されている。

見どころ 白鳥神社、御山(日本一低い山)、松原(白砂青松100選)、白鳥神社のクスノキ(香川の保存木・かおり風景100選)



▲御山



5 四方指園地・寒霞溪園地・紅雲亭園地(小豆島町)



▲秋の寒霞溪

寒霞溪は、約1300万年前の火山活動で形成された溪谷で、日本三大溪谷美とも賞される。度重なる地殻変動や、風雨の浸食によりつくられた奇岩や崖壁がそびえ、瀬戸内海の景勝地として、紅葉の季節には特に多くの観光客が訪れる。

紅雲亭から山頂までは、錦屏風や烏帽子岩などの「表十二景」と、松茸岩や石門洞などの「裏八景」の2コースの遊歩道が整備され、奇岩怪石の絶景を眺めながら自然探訪できる。

また、四方指園地は、美しの原高原ともよばれ、山頂展望台からは瀬戸大橋や大鳴門橋が見渡せる。

見どころ 四季折々の溪谷美、表十二景・裏八景、四望頂、鷹取展望台、奇岩

▼紅雲亭



6 星ヶ城園地(小豆島町)



▲星ヶ城西峰から内海湾を望む

星ヶ城山は、瀬戸内海島しょ部の最高峰(816m)で、自然の地形を利用した山城跡がある。南北朝時代に備前児島半島飽浦の豪族佐々木信胤が戦時の城として使ったものと考えられている。

表門、居館跡、鍛冶場跡、外空壕、井戸、土塁、石塁などの多くの遺構が残り、城跡は県指定の史跡となっている。

星ヶ城山の西峰からは内海湾から四国方面への眺望ができる。

見どころ 星ヶ城跡、内海湾の眺め



▲星ヶ城山(東峰)



▲大観望



▲星ヶ城神社



7 しゃかがはな 釈迦ヶ鼻園地(小豆島町)



▲釈迦ヶ鼻園地から庵治方面を望む

釈迦ヶ鼻園地は、小豆島の最南端の三都半島にある。浜辺には、地蔵崎・釈迦ヶ鼻の地名の由来となった石造釈迦座像がある。近くに地蔵崎灯台があり、目の前の瀬戸内海を行き来する大型船舶をゆっくりと眺めることができる。

見どころ 地蔵崎灯台、石造釈迦座像



▲地蔵崎燈台



8 おうとざん 皇踏山園地(土庄町)



▲皇踏山頂から小豊島、豊島を望む

皇踏山は土庄港を見下ろすようにそびえ、標高394m。小豆島霊場第七十二番札所の龍湖寺奥の院・笠ヶ瀧から遊歩道が整備されている。

山頂周辺には、中世のものと思われる山城跡がある。山城跡を巡る遊歩道を登ると、山頂には展望台、休憩所がある。

麓に位置する宝生院の境内には、日本最大のシンパクといわれる国の特別天然記念物の「宝生院のシンパク」がある。応神天皇によりお手植えされたという伝説があり、樹齢は1500年以上と推定されている。

見どころ 山城跡を巡る遊歩道



▲皇踏山展望台からエンジェルロードを望む



▲宝生院のシンパク



9 きん りん こう えん
琴林公園(さぬき市)



▲津田の松原

琴林公園は、「津田の松原」と呼ばれ親生まれ、「日本の白砂青松100選」、「日本の渚100選」にも選ばれた景勝地。黒松林のコントラストが美しく、樹齢600年を超える老松をはじめ、根上りの松などが約1kmにわたって続いている。

江戸時代の初期に津田岩清水八幡宮の防風林として植えられたのが始まりとされており、園内には多くの文化人たちが松原を愛でた碑文や石碑がある。

見どころ 津田の松原(白砂青松100選、日本の渚100選)



▲津田の松原海水浴場



▲根上りの松

10 ご てん やま
御殿山園地(高松市)



▲御殿山山頂から大島を望む

御殿山は、高松市庵治町の北西に位置し、標高は約86m。山頂は広く開け、展望台からは瀬戸内海の島々や、南には五剣山、西には源平合戦ゆかりの屋島を展望することができる。

海岸付近には、御殿山の名前の由来となった「御殿」とよばれる高松藩主松平頼重公の別荘跡があり、御殿用の井戸などが残っている。また、御殿山の南側にある映画で有名となった皇子神社からは、庵治の街並みを見下ろすことができる。

見どころ 五剣山や屋島の眺望



▲御殿の浜



▲根太鼻から屋島を望む



11 おぎ しま 男木島園地(高松市)



▲男木島灯台と水仙

男木島は、高松港の沖合約7.5kmに位置している。

最北端のトウガ鼻に立つ男木島灯台は、映画の舞台にもなり、明治時代に建てられた洋風建築の宿舎跡は、灯台資料館として利用されている。

男木島遊歩道は、島の見どころをめぐる全長約1.6kmの遊歩道で、桃太郎に退治された鬼が逃げ込んだとされる洞穴「ジイの穴」や、約500万年前の火山活動でできたとされる柱状節理の通称「タンク岩」など、見どころは多い。冬から春にかけては、遊歩道周辺に植えられた水仙が咲き誇る。

見どころ 男木島灯台、ジイの穴、タンク岩、水仙



▲タンク岩

12 めぎ しま さん ちょう 女木島山頂園地(高松市)



▲鷲ヶ峰から大島、小豆島を望む

女木島は高松港の沖合約4km、男木島の南に位置し、古くから「鬼ヶ島」とよばれ、おとぎ話の「桃太郎の鬼退治」の舞台になった島と言われている。

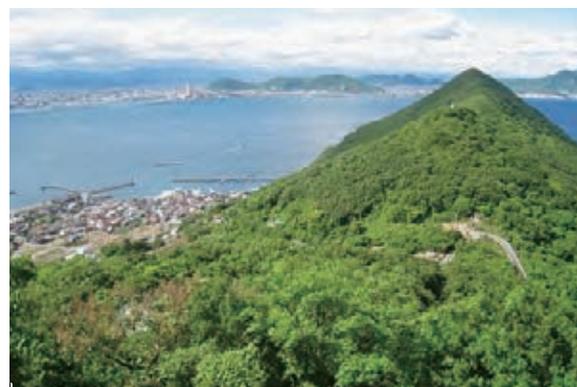
女木島山頂園地のある鷲ヶ峰の山頂近くには、鬼の棲み処とされる奥行き450mに及ぶ洞窟があり、洞窟出口の上部には、珍しい玄武岩の柱状節理を見ることができる。

標高187mの鷲ヶ峰展望台は洞窟のすぐ上にあり、360度のパノラマ風景が展望でき、桜の名所としても知られる。

見どころ 鬼ヶ島大洞窟、柱状節理、パノラマ眺望(日本の夕陽100選)、桜、女木島海水浴場(快水浴場100選)



▼山頂展望台から高松市街を望む



▲展望台



13 やしま 屋島園地(高松市)



▲遊鶴亭から男木島、豊島を望む

屋島は、瀬戸内海に突き出た南北に延びる標高292mの半島型の溶岩台地。頂上部が平坦で、屋根のように平らな形状であること、また中世まで海に囲まれた島であったことから名付けられたと言われている。源平合戦の屋島の戦いの古戦場などがあることから、国の史跡に指定されている。

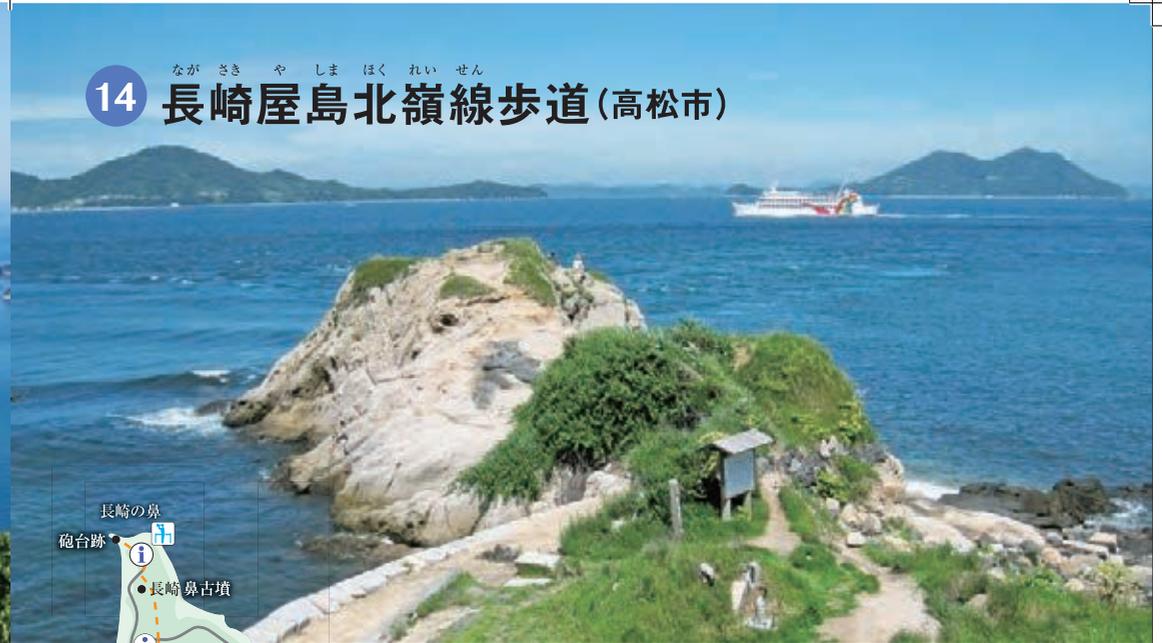
屋島北嶺には、「千間堂跡」や「魚見台跡」があり、屋島南嶺には、四国霊場第八十四番札所屋島寺や、古代山城の「屋嶋城」、弘法大師ゆかりの「加持水」、「不喰梨」、西行法師ゆかりの「暈石」といった数多くの史跡がある。

屋島の三大展望地である「獅子の霊巖」、「談古嶺」、「遊鶴亭」からの眺望は絶景である。

見どころ 屋島寺、屋嶋城、獅子の霊巖・談古嶺・遊鶴亭からの眺望、高松市街地の夕景・夜景(日本の夕陽100選)



14 ながさき やしま ぼく れい せん 長崎屋島北嶺線歩道(高松市)



▲長崎の鼻から女木島、男木島を望む



屋島北嶺の遊鶴亭から長崎の鼻にかけて遊歩道が整備されており、自然を楽しみながら歩くことができる。遊歩道沿いには、豊島石の切り出し跡や、長崎鼻古墳、幕末に築かれた砲台跡など各時代の重要な遺跡が数多く残っている。

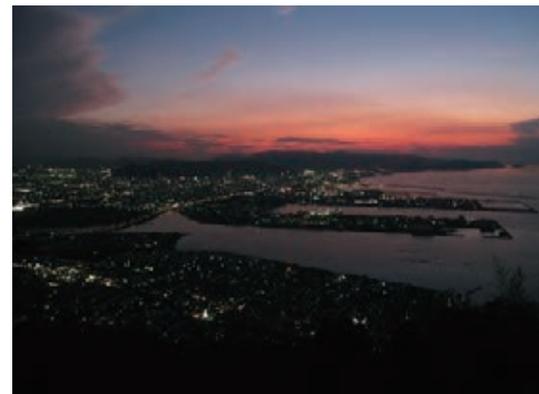
見どころ 遊鶴亭、長崎鼻古墳、砲台跡



▲遊鶴亭から長崎の鼻への遊歩道



▲屋嶋城(高松市教育委員会提供)



▲高松市街を望む夕景

15 おお さき やま くろ みね
大崎山・黒峰園地(坂出市)



▲流政之氏彫刻「またきまい」

瀬戸大橋を望む夕景▶



五色台は、「紅峰」「黄峰」「黒峰」「青峰」「白峰」の五つの連峰からなる溶岩台地。五色台スカイラインが南北に走り、自然の中のドライブを楽しんだり、途中の展望所で瀬戸内海に浮かぶ島々を眺めたりすることができる。

五色台北側にある大崎山園地の展望台には高松市在住で世界的にも著名な彫刻家・流政之氏の制作した「またきまい」の彫刻がある。「またきまい」は香川県の方言で「また来てください」の意味。瀬戸内海の島々をまたいで歩く姿を表している。展望台からは対岸の岡山県や瀬戸大橋、高松市街地方面が眺望できる。

また、大崎山の南に位置している黒峰園地の展望台からは高松市街が一望でき、五色台と相対している東の屋島を望むことができる。

見どころ またきまい(流政之作)、瀬戸内海歴史民俗資料館、大崎の鼻からの大槌・小槌、桜



16 しろ みね の う しろ みね じ せん
白峰園地・乃生白峯寺線歩道(坂出市)



▲白峰展望台から坂出市方面を望む

白峰には、四国霊場第八十一番札所・白峯寺がある。また、保元の乱で都落ちして讃岐の地に流され崩御した崇徳上皇の陵墓があり、この周辺には上皇ゆかりの史跡や逸話が多く残されている。

白峯寺の入り口にある白峰園地は、桜の名所として有名で、展望台からは讃岐平野の田園風景や瀬戸大橋を望むことができる。

西行法師が白峯御陵を訪れたときに通ったとされる道を乃生白峯寺線歩道とし、県道高松坂出線(浜街道)沿いの青海神社から崇徳上皇白峯御陵までのおよそ1.34kmの区間を「西行法師の道」として整備している。参道沿いには、西行法師と崇徳上皇の歌を刻んだ八十八基の歌碑と、石燈籠九十三基が設置されている。

また、参道の途中からみえる稚児ヶ滝は、まとまった雨が降るとその姿を見ることができる幻の大滝で、断崖絶壁から流れ落ちる滝は、落差約100mある。

見どころ 白峯寺、崇徳上皇陵墓、桜、西行法師の道、稚児ヶ滝



▲西行法師の道

17 五色台園地 (坂出市)



▲五色台ビジターセンター

五色台園地は、香川県における瀬戸内海国立公園の主要利用拠点として、五色台ビジターセンター、休暇村讃岐五色台、オートキャンプ場等がある。

ビジターセンターでは、常設展示のほかにも、さまざまな企画展やイベントを開催しており、五色台の自然とふれあうきっかけとなる情報を提供するとともに、様々な環境学習の場として、自然観察・クラフト・食育など、幅広い体験のできるプログラムが随時開催されている。

●9時～17時/入館無料/毎週月曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始休館/坂出市王越町木沢 ☎0877-47-2479

休暇村讃岐五色台

標高400mの高台に位置し、瀬戸内海が一望できる。テニスコートやプール、展望大浴場、オートキャンプ場など設備が充実している。ラウンジから眺める瀬戸大橋や与島、塩飽諸島などの風景も素晴らしい。

休暇村讃岐五色台▶



18 城山園地 (坂出市・丸亀市)



▲山頂展望台から南側を望む

城山(標高462m)は、古代の城の呼称である城をそのまま山名とする坂出市と丸亀市との境界上に盛り上がる溶岩台地。

頂上付近には、天智天皇の時代に大陸からの侵攻に備えて構築された朝鮮式山城と推定される遺構が残り、国の史跡に指定されている。

高原状の山頂の平坦部は広大で、すべて城郭と考えられており、「車道」と呼ぶ帯状の平坦地が残っていて大きく2段になっている。その間には、「まないた石」と呼ばれる石造加工物や、城門の大柱の礎石に使われた「ホロソ岩」や水門などが点在している。

展望台からの眺めはとても良く、讃岐平野や讃岐山脈の山並みを一望できる。

見どころ 塩飽諸島から讃岐平野・讃岐山脈の眺望、まないた石、ホロソ岩

▼山頂展望台



19 沙弥島園地(坂出市)



▲オソゴエの浜

沙弥島は、瀬戸大橋記念公園の西側に位置し、瀬戸大橋を正面から見ることができる。現在は番の州の埋め立て事業により、瀬居島とともに陸続きとなっている。

歴史と文化の島で、旧石器・縄文・弥生時代の遺跡や古墳、文学碑などがあり、これらをめぐる遊歩道が整備されている。なかでも、万葉の歌人・柿本人麻呂ゆかりの歌碑はよく知られている。

北東にあるナカダ浜は、満潮時には石畳の遊歩道の真横まで海面がせまり、瀬戸内海の澄んだ海を間近に見ることができる。

見どころ 柿本人麻呂碑、ナカダ浜、沙弥島海水浴場(快水浴場100選)、瀬戸大橋の眺望

▼ナカダ浜のエノキ



20 本島遠見山園地(丸亀市)



▲展望台から瀬戸大橋を望む

本島は、大小28の島々からなる塩飽諸島の中心で、塩飽水軍の本拠地として栄えた歴史を今に伝えている。国指定重要文化財の「塩飽勤番所」や、国選定重要伝統的建造物群保存地区となった「笠島まち並み保存地区」などがある。

遠見山(標高101m)は笠島集落の背後にあり、展望台からは瀬戸大橋の眺望が素晴らしく、瀬戸内の多島美と壮大な橋の姿が視界いっぱいに広がる。

見どころ 塩飽勤番所、笠島まち並み保存地区、瀬戸大橋の眺望、泊海水浴場(快水浴場100選)



▲笠島集落



21 香色山園地(善通寺市)



▲香色山山頂から善通寺市方面を望む

香色山(標高157m)は、四国霊場第七十五番札所の総本山善通寺の西に位置し、筆ノ山・我拝師山・中山・火上山とともに「五岳山」とよばれている。

山頂から4基の経塚が発見され「香色山経塚群」として香川県の史跡に指定されている。山頂からは、丸亀平野に浮かぶ讃岐富士(飯野山)を眺めることができる。

香色山の山腰をぐるりととりまく山道があり、それに沿ってあるミニ八十八ヶ所には、江戸時代建立の88体の石仏がある。

見どころ 香色山経塚群



▲山頂休憩所



▲山頂広場

22 大麻山園地(善通寺市)



▲野田院古墳と五岳山



▲山頂展望台

大麻山(標高616m)は、善通寺市の南に南北に長くそびえ、南の端にあたるのが琴平山。琴平町側の山容が象の頭に似ているところから象頭山ともよばれ、中腹には、全国に名高い金刀比羅宮がある。

山頂部は平らな溶岩台地で、展望台からは瀬戸内海や丸亀平野が一望できる。ここでは多くの八重桜が桜並木となっていて、開花時期のみ山頂付近まで車の乗り入れが許可されている。

また、北西部には国指定史跡の有岡古墳群の野田院古墳遺構や、キャンプ場が整備されている。

見どころ 讃岐平野の眺望、桜並木、野田院古墳遺構



あわしませんほ どう
23 粟島線歩道(三豊市)



▲城山山頂から紫谷山を望む

粟島は、三豊市詫間町の北約4kmに浮かぶ。古くは三つの島だったが、潮流によって砂州ができ、それが結びあわされて現在のようなスクリー型の一つの島を形成したと考えられている。

島には城山、紫谷山、阿島山の三山がそびえ、このうち城山は、粟島の最高峰(222m)で、展望台からは360度のパノラマの風景を見ることができる。

見どころ 360度のパノラマ眺望、粟島海洋記念館



▲城山山頂から阿島山を望む



▼粟島海洋記念館



しゅうでやま
24 紫雲出山園地(三豊市)



▲紫雲出山山頂から粟島を望む

紫雲出山は、瀬戸内海に突き出た庄内半島の中央にあり、瀬戸内の海とみどりが一体となった風景が美しい。

庄内半島には「浦島太郎伝説」が多く残っており、浦島太郎が開けた玉手箱の煙が、紫の雲になって立ち昇ったことから紫雲出山とよばれるようになったと言われている。

山頂(352m)の細長く続く園地には、春は約1,000本のソメイヨシノが咲き、県下有数の桜の名所として知られ、その他にも、アジサイ・ツバキ・サザンカ・水仙など四季折々の花が山を彩り、瀬戸内海の素晴らしい眺望とともに楽しむことができる。また、山頂一帯には弥生時代中期の集落の遺跡群があり、遺跡館が併設され、喫茶コーナーもある。

見どころ パノラマ眺望(日本の夕陽100選)、桜、遺跡館、遊歩道(森林浴の森日本100選)



◀山頂付近の桜



25 つたしま 蔦島園地(三豊市)



蔦島は、仁尾港から約800m西にあり、どちらも無人島の大蔦島と小蔦島をあわせて蔦島と呼ぶ。

周囲4kmの大蔦島は、遊歩道が整備され、天狗神社・沖津宮をはじめ、神楽石・笑い石・烏帽子岩・天狗岩など奇岩石が数多くある。

4月～10月の間だけ渡船で渡ることができ、春には桜やツツジが瀬戸内海の景観に映え、夏にはキャンプ場や海水浴場がオープンし、釣りやマリレジャーを楽しむことができる。

見どころ つた島海水浴場、天狗神社、神楽石などの奇岩石



▼天狗神社

▼大観亭から寺浦を望む



26 ことひき 琴弾公園(観音寺市)



▲銭形の砂絵

琴弾公園は、2kmにわたる白砂青松の有明浜を有する国の指定名勝。銭形の砂絵「寛永通宝」があり、琴弾山(標高70m)山頂からの眺望が最大のみどころ。園内には、小沢圭次郎の設計による和風庭園があり、琴柱池や、藤棚、噴水なども見られ、市民の憩いの場ともなっている。

県内唯一の海浜植物種群落があり、ハマボウフウ、ウンランなど20数種類の植物が見られる。

見どころ 有明浜(白砂青松100選、日本の夕陽100選、日本の渚100選)、銭形砂絵(寛永通宝)、琴柱池、海浜植物、桜(さくら名所100選)



▲県内唯一の海浜植物種群落



▲和風庭園



国立公園指定前後の瀬戸内海景勝地の保全と活用

国立公園指定以前 景勝地と保勝会の活動

明治時代になると、明治30年(1897)の古社寺保存法や大正8年(1919)の史蹟名勝天然記念物保存法の制定が、地域に残る建築、彫刻、史蹟、自然などに文化財的な価値を与え、それらを守り宣伝する保勝会も各地に誕生し、後に国立公園誘致運動を展開する団体も登場しました。県内では明治30年代はじめに屋島保勝会、小豆島寒霞溪の神懸山保勝会が、明治時代末から昭和時代初期にかけて琴弾公園の三豊郡保勝会、仁尾鳶島・平石の仁尾保勝会、本島の塩飽本島村保勝会、女木島の鬼ヶ島保勝会、引田城山の城山保勝会などが設立され、有志による桜や楓の植栽、ベンチや遊歩道の整備、案内書、絵葉書の発行など、景勝地の保護と活用がはじまりました。

また、近代交通の発達や交通網の整備は、大正時代に観光ブームを巻き起こしました。昭和2年(1927)に大阪毎日新聞社・東京日日新聞社主催で行われた「日本新八景(二十五勝・百景)」

選定は、国民の投票で候補地を決める方式をとり約9,300万通の投票葉書が寄せられるなど広く国民の関心を集め、香川県では屋島が二十五勝に、寒霞溪が百景に選定され、後に瀬戸内海国立公園に指定される沿岸景勝地も多く含まれていました。香川県でも同じ昭和2年(1927)に香川新報社により「讃岐十景」が選定され、景勝地への関心が高まりました。



▲三豊郡保勝会「琴弾公園案内」



▲仁尾保勝会・仁尾商工会(仁尾町高島公園(平石)遊覧案内)

瀬戸内海国立公園指定と巡る観光、ハイキング

瀬戸内海の多島美や船旅での移り変わる内海風景の美しさは、幕末から明治時代に来日した外国人から絶賛され、ヨーロッパでは「世界第一の景」「世界の公園」「現世の極楽」とも称されていました。国内でも明治時代後半には国立公園構想が登場し、海洋立国日本として「世界の公園瀬戸内海」を国立公園にという機運が高まってきました。

香川県内でも寒霞溪をもつ小豆島や屋島、高松などを中心に国立公園指定への運動や観光客誘致が積極的に行われ、昭和9年(1934)3月、備讃瀬戸を中心とする瀬戸内海が日本で最初の国立公園の一つとして指定されました。

国立公園に指定された地域では、高所からの内海多島美(パノラマ景)を楽しむための展望台を整備したり、船からの移り変わる景色(シークエンス景)を楽しむための船旅が行われたりしま

した。特に瀬戸内海の旅客輸送の中核を担っていた大阪商船では、国立公園指定前から大型客船による「世界の公園瀬戸内海の旅」への宣伝に力を入れ、大阪・神戸から本島・女木島を巡



▲高松市観光課「高松中心のハイキングコース」



▲香川県観光協会「ハイキングコース」

る船旅などに数多くの観光客をいざないました。

また、国立公園思想の一つには、「国民の保健休養の場」の提供がありました。指定後発行された観光案内書には、国立公園やその周辺部にハイキングコースを設定紹介したものが多

数あり、また大阪商船は独自に国立公園を眺めながらハイキングするコースを設定したり、瀬戸内海の多島美を巡る船旅と上陸した島でのハイキングをセットにしたりした健康増進のための観光メニューが多数提案されました。

瀬戸内海の変ぼうと未来の保全と活用へ

昭和30年代後半からの高度経済成長は、瀬戸内海に水質汚染などの環境悪化をもたらし、沿岸の風景も塩田の廃止や工場埋立地の造成などにより大きく変ぼうしました。手つかずの自然だけでなく、人々の生活の場・里海里山が国立公園となっている瀬戸内海は、環境保全と活用は、人々の叡智なくして両立しないといえます。自然景観はもちろん、漁業や農業など人と自然

が織りなす人文景やそこで育まれた多彩な文化のすばらしさも一緒に再発見し、保全・活用していく必要があります。瀬戸内海をゆっくり巡りながら、自然、歴史、文化、風土に響き合った芸術作品、そこに暮らす人々、集う人々に出会い、そこから21世紀の新しい保勝会活動が展開されることを期待します。

(瀬戸内海歴史民俗資料館長 田井静明)



▲香川県国立公園協会「史蹟と風光の香川県」(吉田初三郎作)

※資料はいずれも瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

瀬戸内海国立公園の父

小西 和

KONISHI KANAU



写真:さぬき市教育委員会提供

「国立公園選定は瀬戸内海を以てするのが海洋国として當然」先見の明を持ち、わが国で初めて国立公園法制定を提唱した香川県人

明治6年(1873)、現在のさぬき市長尾名に生まれる。

中学卒業後、札幌農学校で植物学を専攻し、北海道開拓を夢見て在学中に小西農場を開く。その後、東京で朝日新聞社記者として日露戦争に従軍。帰国後、瀬戸内海の現地調

査を実施し関係資料を収集、明治44年(1911)に瀬戸内海の総合研究書とされる「瀬戸内海論」を刊行した。

明治45年(1912)、衆議院議員に初当選。瀬戸内海を「世界の公園」にすべきと粘り強く主張をし続け、国立公園指定化に向けて心血を注いだ。昭和6年(1931)

に「国立公園法」が成立、昭和9年(1934)、同法により日本で最初の国立公園の一つとして、「瀬戸内海国立公園」が指定され、ここに小西の長年の尽力が実を結んだ。



▲瀬戸内海論

瀬戸内海歴史民俗資料館

昭和48年(1973)、瀬戸内海国立公園内の香川県五色台山上に、全国でも数少ない広域資料館として瀬戸内地方の歴史、民俗、考古に関する資料の収集や展示、調査・研究を行うために整備されました。現在は香川県立ミュージアムの分館として、民俗を中心にした瀬戸内文化全体を広く対象にして活動しています。

瀬戸内地方全域から収集された民俗資料は約21,000点を数え、そのうち、瀬戸内地方の漁撈用具ぎょろうや船大工用具、西日本の背負運搬具など約6,000点が国重要有形民俗文化財に指定されています。

また、古城を思わせる石積みの特徴的な外観と自然地形や環境を生かした回廊式の建築は、日本建築学会作品賞や日本公共建築百選、DOCOMOMOJapan選定建築などの各種建築賞を受賞しており、日本を代表するモダニズム建築の一つとして高い評価を得ています。

所在地:高松市亀水町1412-2

TEL:087-881-4707

休館日:月曜日(月曜日が休日の場合は、原則として翌火曜日)、年末年始

開館時間:9:00~17:00(入館は16:30まで)

観覧料:無料



▲正面入口



▲瀬戸内海の漁撈用具の展示



▲瀬戸内海国立公園の五色台に立地する瀬戸内海歴史民俗資料館

香川県内の瀬戸内海国立公園のお問い合わせは

香川県環境森林部 みどり保全課 総務・自然公園グループ

TEL087-832-3214 FAX087-806-0225 e-mail: midorihozen@pref.kagawa.lg.jp